

第5回体の動きを高める運動領域部会記録

参加者 畠中 岡田 山本 坪根 東 鈴木 濱須 関川 戸澤 土屋 高岡 藤井 河野 奥水
大川
常任理事 佐藤校長

I 実技研修

(1) スラッグライン

【ポイント】

- ・両手でバランスをとる
- ・遠くを見るように目線を上げる
⇒足元を見ないと怖い
- ・おなかを意識しながら移動する。

○上にスラッグラインがあれば容易にできる。子供の達成感も得られる。

○身長の高い子のために、リングバトンをつかめるようにする。

○マット一枚分の長さで設定すると地面に足が着くことがない。



(2) ボールキャッチ

【ポイント】

- ・ボールの落ちてくるところにすぐに移動する。
- ・ボールをよく見て、体の中心でキャッチする。
- ・膝を使って投げると高く投げ上げることができる。

○2人組で運動をできるようにすると、工夫が広がり、高まりも実感しやすい。

(3) ボールドリブル (検討が必要)

【ポイント】

- ・ボールを見ずに、目線は前を見る。
⇒ボールから目を離すのが難しい
- ・前へ押し出すようにつく。
- ・体の横でボールをつく。

(4) 長なわ

【ポイント】

- ・なわが目の前を通り過ぎたときに入る。
- ・一定のリズムで跳ぶ
- ・出るときは、なわの外に向かって走り抜ける。

☆つま先で跳ぶ

○はじめは連続跳びに終始することが多いので、教師が工夫を提示することも必要

(5) リズミカルコース走（検討が必要）

コーンタッチ→バーくぐり → バージャンプ → バーくぐり→跳び箱の上をリズミカルに渡る
→ケンステップ

【ポイント】

- ・コーンをタッチするときは、低い姿勢でステップ幅を一定にする。
- ・バーをくぐる際には、素早くくぐれるよう上体を低くする。
⇒これはポイントなのか？「上体を低くするために〇〇する」の方がいい？
- ・バランスを保ちながら跳ぶ。
- ・つま先に力を入れて跳ぶ。

○数値化しないと、高まりが実感しづらい。

(6) バンブーステップ（短なわ）

【ポイント】

- ・トンパツパのリズムに合わせて跳ぶ。
- ・なわをよく見て、動きに合わせて跳ぶ。

☆つま先で跳ぶ。

○縄の持ち手は、立てるよりも寝かせた方が音が鳴るし、高さが出ないので跳びやすい。

○両足ジャンプ「外（パー）→中（グー）→中（グー）」をもとの動きとする。

2 実証授業 手立てについて

(1) 単元計画について

学びのロードマップをどのように学級で扱っていくかが今の悩みである。

昨年度は①今の自分を書く、②学習後の自分を書く、③問い、④それに対する学習課題を書いて学び方を共有していた。

第2時までに「今の自分」や「学習後の自分」のイメージをもつことができる子供はどれくらいいるのか疑問が残る。昨年度は、3時間かけて「問い」から「学習課題」に方向付けていた。

単元の始めに「問い」と「学習課題」を紹介しながらみんなの動きを高めていくためには何が必要であるか実感できるようにしながら進めていくことで、「今の自分」と「学習後の自分」が見えてくる可能性があると感じた。

単元序盤のロードマップ作りにおいては、今の自分を考えたり、学習後の自分をイメージしたりする活動に中心を置くのか、問いと学習課題を結び付けるところを中心に置くのか今考え中である。

現段階では、問いを学習課題に結び付ける活動を中心に扱うことを優先したいと考えた。

(2) 他者とのかかわりについて

単元の序盤と単元の終盤では楽しさの感じ方が変わってくる。「運動できて楽しい」→「動きが高まって楽しい」

教師のかかわり方については、単元序盤では「教師の主導性の高いかかわり」から単元の終盤に向けて「教師の主導性は低くなるかかわり」に変化していく流れをとる考え方がどの資料にも共通していた。

子供においては、単元を進めるにつれて、何をすればいいか分からない状態から、何をすればよいのか分かる状態になるように主体性を高める指導が大切であり、主体性が高まれば、かかわろうとする力も高まると考えた。単元の序盤（教師の価値付け）→単元の終盤（子供同士の価値付け・相互評価）

ジャムボードの活用もかかわりを生むうえで有効ではないかと話し合った。

学び方を身に付けるためには、機付け・目的・必要感が大切だと考えた。

「か・つ・どん」の合言葉を今年度の学びの姿を当てはめてもよいのではないか。

(3) 学習カード

表紙の個人のロードマップ、問いマップのところは、昨年度のものを踏襲したいと考えた。

検討したところは、学習の振り返りの部分で、数値で振り返らせるデザインとレーダーチャートで振り返りを記録するタイプのデザインがあったので、学級の実態で選択していきたい。

大切なことは「何を振り返るのか」ということである。レーダーチャートでは自分の強みや弱みが視覚化できるよさがある。「何を振り返るのか」については、課題が解決できたことを振り返るのか、何が高まったかを振り返るのか部会でもう一度検討したい。

学習課題を記入する箇所は入れたい。

大切なことは、動きの高まりの実感なのではないか？

何を振り返られるようにするか？

評価の理由を入れる。

体力の4要素でレーダーチャートを作成すると今回の単元では、巧みに偏っているので、バランスのよいレーダーチャートを完成させることは難しい。

振り返りについては、今日～だったから、次は〇〇したいという視点は学習を調整する上で大切な視点だと考える。

「振り返り」とは、学習を整理するということである。

部会が考える「学習課題」とは、それぞれ解決したい問いに対しての自分なりの解決方法が「学習課題」であると捉えている。

授業の学習課題はいつ書くのか

前時の時間の最後には、次時の課題を記入させたい。事前に子供がどのように取り組むのかを把握するため。

3 各グループの発表を受けて

昨年度のロードマップは、子供たち自身が学習課題を見いだすための手だてであった。学習課題に対してどのように取り組んだかを強調して価値付けていったので、学び方の価値付けはそれほど多くなかった。

子供の問いから学習課題を見だし、取り組んだ結果から学び方を価値付けていくことはできると考えている。よって、結果の姿を価値付けていくことでロードマップの手だてをよりよくしていくことはできるのではないかな。

「かかわり」の価値付けや「ポイント発見」の価値付け、「課題設定」の価値付けは必要なのではないか。1単位時間の中で授業の始めの「ロードマップに触れる場面」、運動を行っている「途中の共有場面」、授業の終わりの「振り返り場面」の3回がクラス全体で共有する場面になるので、その中で「かかわり」、「ポイント発見」、「課題設定」の姿を価値付けたい。

第1時では、「問い」を出すのか？「今の自分」と「単元後の自分を」書くのか？問いマップが第1時の振り返りでもよいのではないかな。

第2時では、ロードマップを作成するための話し合いや合意形成をして、第3時の頭でロードマップを共有していきたい。

昨年度は第1時で「やってみて問いを出す」、第2時で「問いと学習課題」第3時で「ロードマップ」を扱った。

学級のロードマップの「学級」はなくしてもよい？

問いマップはA3に印刷。

★学習過程としては、第1時で「問いを見いだす」、第2時で「問いを見いだしたところから学習課題につなげていく」、「一人一人がロードマップ作りを開始していく」、第3時で「ロードマップを共有し、巧みの運動を行っていく」。

単元前半では、教師の働きかけが多くなるが、その働きかけが後半の子供同士のかかわり方に生きてくるような学習過程を目指したい。

子供たちが自己評価している姿を部会でどのように捉えていくか検討していく必要がある。

自己評価している姿は無数にあるが、いくつかピックアップしていくことも必要なのではないかな。

ジャムボードの活用は興味がある。

ICT・・・動画をどの場面で、どう撮るのか？今後、実証授業②に向けて検討が必要。

4 常任理事の先生から

<佐藤校長先生>

実技研修を通してどのような運動を行うのかよく分かった。

実証授業を行うに当たって、もう少し検討の時間が必要であり、実証授業①の位置づけを考えていく必要がある。

実技研修を見ていて、**子供たちが自己評価する内容は何なのか**疑問を感じた、検討する必要がある。「できたか、できなかったのかの結果だけなのか」「取組の方法なのか」「工夫（思考・判断・表現の内容と技能）を絡めた内容なのか」検討しなくてはいけない。

子供の思考的に考えると、技能に対する自己評価は強くなると感えられるが、部会が求めている姿とし

てはそれ以外の側面も考えていると思うが、その姿を部会として夏季合研までに明らかにしていきたい。

＜河野先生＞

自己評価は、運動だけではない。一人一人が深い学びを実現するために、自己評価が必要であると考えている。自己評価するためには子供たちが運動学習に動機付けられ、きちんと自己方略を立てて、やってみて振り返り、次につなげていく姿が大切である。

自己決定理論では、教師が「自律性の支援」「称賛・価値付け」「関係付け」の3つの支援をしていくと、子供が自律性の高い動機付けの状態になり、そこから自分の活動を振り返り次の活動を考える自己調整学習につなげていく考え方がある。

「かわり」と「動機付け」と「子供自身の学習方略」を関連付けて考えていくと子供が自己評価するという力は高まっていき、高まった自己評価する力が子供自身の学習に返り、一人一人の体の動きが高まっていくことにつながると考えている。

これらを点で見るのではなく、PDCAのサイクル（流れ）で考えていくことが大切。

5 次回以降

6月28日（火）18時00分～ オンライン開催

7月 4日（月）18時30分～20時00分 府中市立府中第六小学校

「実証授業①に向けて・・・授業内容 手立てについて」

7月12日（火）府中市立府中第六小学校

「実証授業①」